

株式会社マンドム
2023年3月期 第3四半期決算説明会 Web会議 主な質疑応答（要約）

1. 原材料は具体的には何が値上がりしているのか？

⇒ 影響が大きいものは、ナフサ、アルミ缶、不織布、パーム油など。

2. 3Qの3ヶ月だけで、日本でどのようなポジティブな変化が起きたのか？

⇒ 3つの要因があった。1点目は、男性スキンケアが好調だった。「ギャツピー」が昨年8月の新製品中心に10%台半ば、「ルシード」のスキンケアは40%以上の伸長となった。2点目は、クレンジングの「ビフェスタ」が同様に新製品が貢献し30%弱伸長した。3点目は、女性ヘアケアの「ルシードエル」も同様に新製品「質感再整トリートメント」が高評価で1ケタ後半の伸長となった。

3. 日本の4Q（2023年1～3月）もその好調さは持続すると見ているのか？

⇒ 3Qの当社売上は新製品が牽引して好調だったが、市場自体の動向はあまり芳しくなかった。その市場トレンドを考慮して売上は厳し目に見ている。

4. 2023年度の日本の男性化粧品市場をどう見ているのか？

⇒ 男性化粧品においてはインバウンド効果はあまり期待できないと見ており、国内生活者に対する強化が中心となる。生活者の変化に対応しスモールマスへの取組も進めており、好評のため徐々に流通拡大も行っている。男性化粧品の来期計画としては少なくともマーケットと同等か、それ以上の計画を組むと思う。

5. 日本の3Qは計画以上の実績だったということか？

⇒ 前年の3Q時はコロナ外出制限が緩和されており、その反動もあって化粧品市場自体は前年と比較して芳しくなかった。当社はそれに対して秋冬の新製品が貢献して好調であった。日本だけでなく、海外も為替影響を除いても計画以上に好調だったと理解して頂いて良い。

6. 日本の4Qをネガティブに見ている理由は？

⇒ 3Qの男性化粧品市場自体は前年より売上減少しておりネガティブな状況だった。その推移を考慮して4Q当社売上も厳し目に見ている。店頭配荷が順調で3Q実績を牽引した秋冬新製品も店頭での消化が進まないと、追加の出荷は発生しないことから堅めに見ざるを得ない。

7. 海外その他各国の4Qの見通し、定性的で良いので情報を頂きたい。

⇒ 傾向は3Qから大きな変化はない。為替影響を除いても力強い伸長が継続すると見ている。

8. 4Qの原材料値上げ影響が4.8億円とのことだったが、来期はそれと同程度の影響が年間を通して発生し、20億円程度の影響を受けるという見方なのか？

⇒ 現在、精査中であるが、今期は四半期経過毎に影響が大きくなった経緯を経ているので、来期1Qも今期4Qと同程度の影響下でスタートするのではないかと見ている。

9. 今期の原材料値上げ額の四半期ごとの詳細を教えてください

⇒ 通期で、日本10億円、インドネシア2億円半ばの合計12億円半ばの影響と見ている。
第3四半期では4億円（3Q累計で7億円）、第4四半期で4.8億円と見ている。

10. 3Qで使わなかったマーケティング費用はどの程度か？通期での費用は変更ないのか？

⇒ 年間予算は変更していない。対売上高A&P費率が3Q累計実績では7.2%。
通期では10%以内を計画している。

11. 「ネクスト・キャリア支援制度」の来期の一般管理費への影響額は？

⇒ 今期の特別損失はおおよそ6億円ということは確定。
当該者分の人件費の削減想定分は4億円程度。ただし、あらたに人財を採用する場合もあるので、純粋に4億円削減されるというわけではない。

12. 日本の「ビフェスタ」バームが好調とのことだが、その理由は？同じく男性スキンケアの好調理由は何か？

⇒ 新製品であるバームの店頭搬入が計画以上に進んだ。既存品のシートクレンジング、アイメイクアップリムーバー、ローションも伸長している。さらに、11月の有力小売店様向け先行発売商品も実績拡大に貢献した。
男性スキンケアは市場自体も好調で、「ギャツビー」ではオールインワンタイプの新製品と、リニューアルした薬用スキンケアシリーズの搬入が順調だったこと。加えて男性用「ルシード」の新製品も好調だった。

13. 決算プレゼンテーションで言及していた海外の販管費の構造転換とは？また、それは3Qから効果が出てきたということか？

⇒ 海外各国において、有力小売業様との取組みにおいて、取引条件の交渉により物流費用、導入フィーの見直しを実行している。これは期首から着手しており、3Qから成果が出たというわけではない。

14. 「gatsby THE DESIGNER」の今期決算への影響度と、来期の販売計画は？

⇒ 実績は非開示とさせて頂いている。まだ流通も選別している状況で実際に売上規模も大きくない。
来期以降も流通の拡大、ラインアップの拡大を進めていく計画である。

注意事項

本資料に記載の内容は、フェアディスクローズの観点から、決算説明会の質疑をもとに要約した当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される可能性があります。なお、本資料に記載されている業績見通しや将来予測などに関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現を約束する趣旨のものではありません。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。